

室蘭市が WILLER と連携協定を締結 MaaS による地域活性化を目指し協働開始

室蘭市(所在地:北海道、市長:青山剛)は、WILLER 株式会社(本社:大阪府大阪市、代表取締役:村瀬茂高)とオンデマンド交通などの新たなテクノロジーを活用したモビリティサービスの開発を含む次世代移動サービス「MaaS(Mobility as a Service)」による地域交通の活性化を目指し、連携協定を2020年11月4日に締結しました。

室蘭市は、現在人口が約8万人であり、ピーク時(昭和44年)の約18万人から半数以下に減少しています。それに伴い、生活の足となるバス路線はピーク時の路線網を維持したまま利用者減に合わせ減便しており、利便性の低下が更なる利用者減につながっています。このような地域交通の課題が人口流出の要因の一つであり、ストレスのない地域交通の実現を目指し、平成31年に地域公共交通網形成計画を策定し、地域公共交通の再構築に着手しています。

WILLER は、日本・ASEAN で培ってきた『MaaS』『自動運転』『オンデマンド型シェアバス』によって交通の効率化を図り、少子高齢化による利用者減や労働力不足等の課題を解決するとともに、安全・安心かつ質の高い交通サービスを目指し開発しています。昨年、国内では MaaS アプリをリリースし、海外では自動運転やオンデマンド型シェアバスの交通サービスを商業化しています。

室蘭市は、WILLER の知見を活用して、地域が有する交通資源に配慮し交通の最適化を目指すことで、人と人、人とまちが繋がる豊かなコミュニティを創造し、地域活性化と市民サービスの向上を目指します。

<連携協定概要>

□締結日:2020年11月4日

□目的:室蘭地域の現状と課題に対し共通認識を持ち、地域が有する交通資源に配慮しつつ、相互に連携し協働を図りながら、次世代移動サービスを通じて、室蘭市の地域活性化と市民サービスの向上に寄与する。

□連携事項:

- ①ICT を活用した次世代移動サービスの調査及び実装に向けた検討
- ②地域交通の利便性の向上に関する取り組みの実施
- ③その他本協定の目的を達成するために必要な事項